

神の建造のための祭司職の回復

(金曜日——午前の第二の部)

メッセージ 2

祭司の定義

聖書：出 19:6. I ペテロ 2:5, 9. 啓 1:6. 5:10

- I. 祭司とは、もっぱら神の権益のために生きて、神に仕える人です——出 19:6. ローマ 14:7-8. II コリント 5:15 :
- A. 祭司とは、最も正常で、最も正当な人です。すなわち、神のご計画が、ご自身を一群れの人々の中へと造り込んで、神を彼らの命とならせ、彼らを神の表現とならせるということを認識している人々です——I ペテロ 2:5, 9. 啓 1:6。
- B. 正常で、正当な人とは、祭司である人、神に仕える人です。もしわたしたちが、わたしたちの行なうすべての事において神に仕える祭司でなければ、わたしたちは不正常です——5:10。
- II. 祭司とは、神を受け入れ、神で満たされ、浸透され、飽和されている人です。彼らは神を自分の中から流れ出させて、神の生ける表現となります——I ペテロ 2:5, 9 :
- A. 祭司は神に仕える人ですが、これは、彼が神のために働いたり、あるいは神のために何かを行なったりすることを意味するものではありません。聖書の啓示によれば、神に仕えるとは、神と接触し、神をわたしたちの中へと受け入れ、神で満たされ、浸透され、飽和されることです——ローマ 1:9. 8:11。
- B. 神の意図は、単に神のために働くようわたしたちを召すことではありません。神の意図は、まずわたしたちが自分自身を神に開き、そして神がわたしたちの中に入ってきて、わたしたちを満たし、わたしたちを満ちあふれさせ、ついには神がわたしたちの存在のあらゆる部分を所有することです——エペソ 3:16-21。
- C. わたしたちの全存在は、神によって浸透され、飽和され、所有されなければなりません——I テサロニケ 5:23 :
1. もしこれがわたしたちの状況であるなら、わたしたちは神と一になり、力としての神を外側で着るだけでなく、すべてとしての神ご自身をもって内側で飽和されます——ルカ 24:49. エペソ 5:18。
 2. わたしたちが神によって浸透され、飽和され、所有されるとき、自然に神はわたしたちから流れ出ます。またわたしたちはこの命の流れの

2. 祭司の定義

中で、他の人たちと共に建造されます——ヨハネ7:38. エペソ2:21-22。

- D. 神は、わたしたちを召して神の「ために」何かを行なわせる意図は持っていません。そうではなく、神の意図は、わたしたちが神の召しに答えて、自分自身を神に開き、次のように言うことです、「主よ、わたしがここにいるのは、あなたのために働く用意をするためではなく、あなたによって満たされ、所有され、あなたと一になる用意をするためです」。
- E. わたしたちが主と一になり、主によって所有されてはじめて、わたしたちは主のために働くことができます——3:16-21. I コリント 3:9 前半. 15:58. II コリント 5:20. 6:1。

III. 祭司とは、神とのミングリングの中で神と接触する人です——I コリント 6:17 :

- A. 祭司が聖所を通過して、至聖所の中へと入ることは、彼が神と接触することです。このような接触は、彼自身の中にあるのではなく、神とのミングリングの中にあります。祭司が神と接触することは、神の中にあります——ヘブル 10:19。
- B. わたしたちは祭司として神と接触するとき、単に客観的に神と接触するだけではなく、主観的にも神と接触します。わたしたちは、神から離れて神と接触するのではなく、神の中で、すなわち、神とのミングリングの中で、神と接触します——ヨハネ 15:4-5。

IV. 祭司とは、絶対に、また徹底的に、神とミングリングされている人です——ヨハネ 14:20 :

- A. 神の定められた御旨とは、彼ご自身をわたしたちとミングリングさせることです。それによって神はわたしたちの命、性質、内容となり、わたしたちは神の団体の表現となります——エペソ 3:16-21. 4:4-6, 16 :
1. 神と人とのミングリングとは、神性と人性との要素の内在的な結合であって、一つの有機的な実体を形成します。しかし、それらの要素は、その結合の中で区別されたままです——ルカ 1:35, フットノート 2。
 2. 神のみこころとは、神と人とのミングリングです。そして、神の定められた御旨の成就是、神性と人性とのミングリングにかかっています——エペソ 1:5, 9. 3:11。
 3. クリスマン生活とは、神性と人性とのミングリングです。クリスマンになるとは、神とミングリングされること、神・人になることです——II テモテ 3:17 :
- a. 神は彼のエコノミーの中で、ご自身をわたしたちとミングリングさ

2. 祭司の定義

せて、わたしたちと一つの実体になります—— I コリント 6:17。

b. わたしたちは、わたしたちと神が完全にミングリングされて一となって、一つの命と一つの生活を持つ程度に至るまで、神の有機的な救いを経験することができます——ヨハネ 15:4-5. ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:19-21 前半。

B. もしわたしたちが祭司として神に仕えようとするなら、ミングリングされた霊のビジョンを見る必要があります。すなわち、神聖な霊とわたしたちの再生された人の霊とのミングリングのビジョンを見る必要があります—— I コリント 6:17. ローマ 8:4 :

1. 御父は御子の中におられ、御子はその霊であり、その霊は今や、わたしたちの再生された霊とミングリングされています——ヨハネ 14:9-10, 16-18. I コリント 15:45 後半. 6:17。

2. 神のエコノミーの中心点は、ミングリングされた霊、すなわち、神聖な霊と人の霊とのミングリングです——ローマ 8:4 :

a. これら二つの霊の結合は、聖書の中の最も深い奥義です。

b. 神が行なおうとする事、あるいは達成しようとする事はすべて、ミングリングされた霊と関係があります——エペソ 3:9, 5. 1:17. 2:22. 4:23. 5:18. 6:18。

3. ミングリングされた霊は、主の霊でもあり、またわたしたちの霊でもあります——II コリント 3:17. I コリント 6:17。

4. ミングリングされた霊は、神と一つ霊である霊です。また、神の神格においてではなく、神の命と性質において神と同じである霊です——I ヨハネ 5:11. II ペテロ 1:4 :

a. わたしたちの内側で、神聖な霊と人の霊はミングリングされて、一になっています。それによってわたしたちは、神・人の生活、すなわち、神であるが人であり、人であるが神である生活を、生きることができます——ガラテヤ 2:20. ピリピ 1:19-21 前半。

b. 神・人の生活とは、神の霊と人の霊というこれら二つの霊が、共に結合されミングリングされて一となっている生活です——I コリント 6:17。

5. ミングリングされた霊の中で生きるとは、キリストがわたしたちを満たし、わたしたちに浸透し、ついには彼がわたしたちの全存在に飽和して、それによって彼がわたしたちを通して表現されることです——エペソ 2:22. 3:16-21。

2. 祭司の定義

6. わたしたちが祭司として生活し、仕えるために、認識する必要がある事は、今日、主イエスが三一の神の具体化として、その霊であって、わたしたちの霊に内住しており、わたしたちの霊とミングリングされて一つ霊になっているという事です——Ⅱコリント 3:17. I コリント 15:45 後半. 6:17.

V. 祭司とは、霊の新しさの中で仕える人です——ローマ 7:6 :

- A. わたしたちの霊と関係のあるものすべては、新しいものです。わたしたちの霊から出て来るものすべては、新しいものです——Ⅱコリント 5:17.
- B. わたしたちの再生された霊は、新しさの源です。なぜなら、主、神の命、聖霊が、わたしたちの再生された霊の中にあるからです。

VI. 祭司とは、主に仕える人です——使徒 13:1-4 前半 :

- A. 「彼らが主に仕え、断食していた時、聖霊が言われた、『さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び分け、わたしが彼らを召した働きに当たらせなさい』——2 節：
 - 1. アンテオケに在る召会の働きは、主に仕えていた時に始まりました。
 - 2. わたしたちが主のために行なうすべての働きは、主に仕えるということのような祭司の奉仕から出てこなければなりません。これが、新約の働きの唯一の原則です。
- B. 聖霊の働きは、主に仕えている時にのみ啓示されることが出来ます——2 節：
 - 1. もしわたしたちが、主に仕えることを最優先としなければ、すべては無秩序になるでしょう。
 - 2. 主に仕えている時にのみ、聖霊は人を送り出します。

務めからの抜粋 :

神の意図と祭司職

神はこの宇宙に一つの行政を持っておられます。それには神の神聖なエコノミーがあります。「エコノミー」のギリシャ語の意味は「家の法律」で、家族の者たちに日常の供給を分配し、分与するご計画、行政、案配を暗示しています。この言葉の語根は、ヨハネによる福音書第 10 章 9 節の「牧場」と同じ源からであり、群れに牧草を分配することを暗示しています。神のエコノミーは、神の家庭のエコノミー、神の家庭の行政です(エペソ 1:10. 3:9. I テモテ 4:4)。それは、キリストにあって神ご自身を彼の選びの民

2. 祭司の定義

の中へと分与して、神ご自身を表現する家を持つことです。この家は、キリストのからだである召会です(3:15)。神のエコノミーであるこの神聖な家庭の行政には、三つのおもな務めがあります。それは、祭司職、王職、預言者職です。祭司職は、神のエコノミーにおける最初のおもな務めです。

新約聖書には、祭司職に関して三つのギリシャ語が使われています。第一は、ヘブル人への手紙第7章12節にあるように祭司の職務を指します。第二は、ヘブル人への手紙第7章5節にあるように祭司の奉仕を指します。第三は、ペテロの第一の手紙第2章5節と9節にあるように、団体的に仕える祭司の集まり、祭司の体系、祭司団を指します。人の天然の観念によれば、祭司とは専門家であり、神に仕えることを職業にしている人を意味します。大部分のクリスチャンは、祭司とは神に仕える人であると思っています。これは正しいのですが、神に仕えるとはどういうことなのか説明する必要があります。クリスチャンの間の共通の観念として、神に仕えるとは神のために働くことであるという考えがあります。しかしながら、これは正確な見解とは言えません。祭司は神に仕える人であると言うのは間違いではありませんが、神に仕えることがただ神のために何かを行ったり、働いたりするだけのことであると思うなら、それは間違いです。

祭司とはどういう意味であるかを知るために、わたしたちはまず神の永遠の意図、すなわち、過去の永遠における神の願いと、未来の永遠における神の意図を知らなければなりません。神は目的のある神です。わたしたち人が目的を持っており、常に目的をもって物事を行なっているように、わたしたちよりもはるかに偉大なる神もまた目的のある神であって、それを達成する意図を持っておられます。

聖書は、もろもろの時代の前、この世の基が置かれる前から、神は大いなる喜び、心の願いを持っておられたことを啓示しています(エペソ1:9)。神はご自身の大いなる喜びにしたがって彼の心の願いを果たすために、目的、意図をいただきました。そして彼はご自身の目的を完成するために、あるご計画を立てられました(3:11)。このご計画の中で、彼はご自身を一群れの人々の中へと造り込んで、彼が彼らの命となり、また彼らが彼の表現となることを定められました(1:5)。この神聖な決定に基づいて、神は人を創造されました。人は神を受け入れ、神で満たされ、神で浸透され、飽和され、神を流し出しさえするように運命づけられていました。それは、人が神の生ける表現となるためです(創1:26、2:8-10、ヨハネ7:37-39、

2. 祭司の定義

エペソ 3:19, 1:22-23)。

祭司は神に仕える人ですが、これは、彼が神のために働いたり、あるいは神のために何かを行なったりすることを意味するものではありません。聖書の啓示によれば、神に仕えるとは、神をわたしたちの中へと受け入れ、神と接触し、神で満たされ、神で浸透され、飽和されることです。さらにまた、神に仕えるとは、神を流し出し、この神の流れの中で、他の人たちと共に建造されて、神の団体の表現となることでもあります。これが、神に仕え、祭司となることの正しい意味です。祭司とは、まさに神で満たされ、神と一になり、神によって占有され、さらに神によって完全に所有され、神の命の流れの中で他の人たちと建造されて、今日の地上における神の生ける団体の表現となっている人です。この建造された団体の実体が、祭司職です。

祭司職と神の流れ

キリスト教には、もしわたしたちが神を愛し、畏れるなら、神のために働かなければならないという観念があります。この観念によれば、わたしたちは神のために働くことによって神に仕え、神のみこころを行なう神のしもべとなるために、自分自身を主にささげなければなりません。しかし、実はこれは天然の宗教的な観念であって、天からの啓示ではありません。神には、単に彼ご自身のために働いたり、神のために何かを行なったりするようわたしたちを召す意図は少しもありません。そうではなく、わたしたちが自分自身を神に開くことが、神の意図なのです。わたしたちは神のために何かをすべきではなく、ただ自分自身を神に開き、そして神がわたしたちの中へと入ってきて、わたしたちを満たし、わたしたちを満ちあふれさせることです。このようにして、神はわたしたちに浸透し、飽和し、わたしたちの存在の各部分を占有し、所有します。わたしたちの全存在が、神によって占有され、所有され、神をもって浸透され、飽和される時、わたしたちは神と一になります。確かにわたしたちは、力としての神を外側で着せられるだけでなく、わたしたちにとってすべてとしての彼をもって内側で飽和されることによって、彼で満たされます。わたしたちは、神・人、神で満たされている人となります。そして自然に神はご自身をわたしたちから流し出されます。さらにまた、命の流れであるこの神の流れの中で、わたしたちは他の人たちと共に建造されます。

洪水に押し流されている人たちは、決して単独でいることはできませ

2. 祭司の定義

ん。彼らは洪水の水の一つの流れの中で押し流されます。もしわたしたちがみな陸地にいるなら、わたしたちはとても容易に単独になり、個人主義的になります。しかし、もし洪水が押し寄せてきて、わたしたちを流れの中で押し流すとき、わたしたちの単独と個人主義はすべて失われます。わたしたちはみな洪水の中で「一」になります。なぜなら、わたしたちは一つの方角へと押し流されるからです。わたしたちが洪水のその方角に行くことに同意するかどうかは、重要ではありません。わたしたちは同じ方角に行く以外に選択の余地がありません。わたしたちは互いに異議を唱えるかもしれませんが、洪水に対して異議を唱えることはできません。同じように、わたしたちが神と一であり、神の流れの中にいるとき、わたしたちは互いに一となって、この一つの流れの中で共に建造されます。聖書の最後の絵が見せているのは、命の水の川が神と小羊の御座から流れ出て、新エルサレムの都全体を流れているということです(啓 22:1-2)。都全体は、一つの流れの中にあります。これは祭司職の絵です。

祭司の主要な奉仕

わたしは繰り返して言いますが、祭司であるとは、ただ神のために働くことではありません。このような観念は忘れなければなりません。わたしが若かったころ、主のしもべとは、全時間、主に仕える祭司であると思っていました。またそのような人は労苦し、奮闘し、努力して、主のために何かを行なうべきであると思いました。ある日、主はわたしの目を開いて、わたしの観念が間違っていることを見せてくださいました。神は、わたしたちを召して、神のために何かを行なわせる意図は持っていません。神の唯一の意図は、わたしたちが神の召しに答えて、自分自身を神に開き、次のように神に言うことです、「主よ、わたしがここにいるのは、あなたのために何かを行なったりあなたのために働いたりする用意をするためではなく、あなたによって満たされ所有される用意をするためです。それは、わたしがあなたによって、またあなたをもって、完全に所有されるためです。わたしは、あなたと一になる用意をしています」。わたしたちは主と一になるまで、主のために何も行なうことはできません。わたしたちは、彼のために働くこともできませんし、真の祭司となることもできません。

さらにまた、わたしたちが見なければならない事は、祭司の主要な働きと行為が、いけにえをささげるのではなく、主の御前で時間を費やし

2. 祭司の定義

て、主によって、また主をもって満たされ、浸透され、飽和されて、ついには霊の中で主と一になることであるということです。彼らは、主と共に時間を費やし、主をもって浸透されるまでは、決して十分な祭司になることができません。祭司とは、神のために何かを行なう人ではなく、神で満たされた人です。これが祭司であり、神が持つことを計画した人です。神が持つことを計画した団体の人とは、神のために何かを行なうことに従事する人ではなく、神をもって満たされる人です。もしわたしたちがこのような光を持つなら、すべての人が祭司となって、神を受け入れ、自分自身を神に開いて、神で満たされ、神によって、また神をもって徹底的に、完全に、全面的に浸透され、飽和され、所有されるべきであることを、わたしたちは認識するでしょう。

ですから、わたしたちはみな、神で満たされ、彼によって占有され、所有され、彼のシェキナの栄光をもって浸透され、飽和されなければなりません。そうすれば、わたしたちは彼と一となり、そしてわたしたちは彼の流れの中で他の人と互いに一となります。これが、召会の証しであり、召会の回復であり、召会の建造です。これはまた奉仕でもあります。そしてこれが福音の宣べ伝えでなければなりません。クリスチャンの働きと奉仕のすべて、召会の建造、他の人と接触することは、この祭司職から出て来るものでなければなりません。この時代において神は、わたしたちが神のために何かを行なうという意図を全く持っていません。神の心の願いは、わたしたちが完全に彼に開いて、神にわたしたちを満たしていただくようにすることです。このために、わたしたちは彼の御前で十分な時間を費やして、彼にわたしたちを占有していただき、所有していただき、ご自身をもって浸透さえしていただかなければなりません。これが祭司職です。このような人を、神は今日、持つことを計画しており、また願っています。(ウイットネス・リー全集、1963年第2巻(下)、神の永遠の目的を成就する生活、第8編)